

常盤塾議事録

日時：2017年2月11日（土）10：00～13：00

場所：新国際ビル MBFハウス

文責：常盤塾ライター 鈴木雅也、秋元裕太

メンバー：常盤先生、片平先生、松永さん、古城さん、大下さん、丸山さん、松山さん、出井さん、古川さん、安梅さん

アジェンダ

1. 一分間スピーチ
2. 常盤さんのお話し
3. 出井さんの発表 『発酵は錬金術である（第1章）』『発酵 ミクロの巨人たちの神秘』

(1) 一分間スピーチ

・大下さん

外国の火山について。アメリカやイタリアは勉強をしている人が多い。実際に噴火の危険のあるところでは科学者が発信している。ナポリやイエローストーンなど。ところがその一方で、政府から火山の危険性を取りたすなど訴訟を受けることも。日本ではどうか？「問題を言うのをやめよう」という風潮があるが、後世にも伝えていかなければならない。小学生などに広報活動を進めていくことも重要。

・丸山さん

ビームスはアメリカ的な生活に憧れていた。しかし海外に行ったら日本のものの良さに気づく。今、日本をコンセプトにした工芸品などを紹介する場所をオープン。もの、こと、人をキュレーションする。若い世代に活躍してほしい。アナザーアングルが必要。例えば、老眼鏡＝リーディンググラスへ。デジタルの世界→アナログへ。（本物の夕日を見た方が感動する）新入社員はセンスが良い。すなわちそれは相手の気持ちがわかるから。日本人は得意。

・ **古川さん**

発酵醸造のフォーラムがあった。お酢や醤油。鯉節が家にある人はあまりいない。鯉節の削り機がある人も少ない。無添加のものは絶滅している。木桶を作る会社がなくなるなど。子供や孫の代には無くなってしまう。そこで新しく会社を始めたとのこと。しかしそれでは不十分。「使う側がどう変わったか」の話し合いが必要では。

・ **松永さん**

粋の逆は野暮。通な人を探すのは難しい。通ぶる人＝半か通に引っかかるとブランドはつくれなない。野暮は自分の価値観があるということ。何でもありということは、「何でも良い」ということではない。丸山さんのお話しにつながる部分。

・ **出井さん**

田辺三菱製薬で研究職のインターンを始め、その指導係に就いた。プログラムもなく、どういうことを学んでほしいか？を一から考える。薬の強さを評価する。良い部分だけでなく、副作用のリスクを考える時間を設けた。結果的に、学生側から「企業の研究は正確さやスピードが大事」「いろんな側面から見るディスカッションの大切さがわかった」という意見があった。人に教えることで人から教わっている。

・ **古城さん**

ポスト・トゥルース (post-truth)。事実でないことを言ってみんなが信じること。「うそだけでもう一つの真実」とか言ったり。最近はSNSの普及によって自分の気に入ったニュースだけを見るようになった。ワシントンポストにはピノキオ評価という制度が存在。本物を見極める力をつけていかなければいけない。うその真実に流される側面がある。真実とは何か？という議論が起こるにはいいきっかけなのでは。トランプの聴衆がこないというニュース、トランプ演説の聴衆を妨害する人たちもたくさんいた。大手メディアは

「トランプを否定する」という切り取り方をしている。今、AIが伸びている。みんなの意見の写像が真実となる。それをいろんな方向から検討するが不足している。コンセンサスとして利用されているのが危険。

・ **松山さん**

シンギュラリティー (Singularity)。囲碁の世界チャンピオンに勝った。東大の入試は無理だった。。論理と確率。統計でどこまで読み取れるか。ビッグデータがこれからどんどん活用されていく。統計を読み解く意味を理解できるのは人間だけ。その意味を理解することは人間の本源的な部分。

・ **安梅さん**

意思決定資本とは。人的資本と社会関係資本、意思決定資本を重ねることがプロに必要なこと。意思決定資本とは、判断/実践/挑戦と伸張などのこと。不確実な社会に対するしなやかさを培う。新しい言葉を作りたい？資本というのはもともと経済の話だが、それ以外の場面で資本という言葉を使っているのが面白い。社会や人間が持つ資本。

・ **當盤先生**

三方一両損。左官が財布を見つける。その財布には3両入っている。大工に「落としただろう」と言った。大工は「拾った人のものでいらない」と言ってもめた。大岡越前守に判事を頼んだ。3両出して6両になった。そして3人で一人2両ずつもらった。すなわち全員1両ずつ失った（三方一両損）。win-winではなく、lose-loseの関係も大事では。

(2) 常盤さんのお話し

- ・今の世の中のスピードは、速すぎる。これでいいのか？という反省ができていない。揺れ戻しの傾向が出てきている。人には人の生きるスピードがある。前をばっかり見ていて、周りが見えない。そんなに急がず歩幅を狭めるべき。行き先もはっきりしていない。
- ・一方で、科学の発達が人間の生活にきしみをもたせている。例えば、「病気をしないように」「病気になっても治る」というような技術。果たしてそれで幸せか？もし死ななくなったら、生きることが苦しくなるのでは？企業でもどんどん技術開発のアプローチが進む。
- ・情報化社会の結果が、この時代。うつ、引きこもり、自閉症などが生まれる。それは病気ではなく、世の中の進歩についていけない人たちが環境に対応できなくなった人が病気という結果で現れてきているのでは。
- ・長谷川町子さん。人間の進歩と技術進歩のズレが心配。熱帯雨林の中で、自然の情報をどう受け取りどう生きるかを考えていた。今は情報が大量に流れてくる。システム自体に問題があるのでは。トランプ、EU離脱、テロ、人口減少など。みんな成長成長と言いながら、物価は一向に上がらない。全体として、人間がどう生きるかのバランスの取れるような「定常化経済社会」が必要。伸びてはいかないが、安定的に皆が暮らしていけるシステムを作らないといけないのでは。現在は、文明史的転換点にある。
- ・果たして移民とはなんなのか。国民国家、民主主義というシステムが最善ではないかもしれない。民主主義を超えるシステムを人間が作り出せないのが問題？排他的競争主義（ナショナリズムではなく、競争主義としてのナショナリズム）が生まれている。従来の価値観が揺らいでいる。その理由は、ヨーロッパや日本といった先進国では経済の成長が止まってしまっているから。従来の仕組みでは成長ができない。
- ・もっと身近では、「株式会社」というシステムも疑問。株式会社は、成長を前提としている。金利や年金も、経済の伸びを前提としている。
- ・ではどうしていくことが必要なのか？人口は減り、マーケットは縮小、物価は減少。高度成長の要素がなくなった。重要なのは、国民の生活が安定するような仕組みを考えること。

- ・「小商い」という発想。それは、「信用」や「人」ということを中心とした仕事の仕方。昔の下町の八百屋さんなど。そこにはリピーターがいる。儲けの多さではなく、信用や信頼で続いている老舗の旅館。
- ・定常化経済（安定した経済）が続くという認識を皆がもたなければいけない。win-winのような虫のいい話ではなく、lose-loseでも良い。（三方一両損）お金だけを求めるのではなく、豊かな生活が求められている。昔の人から落語を通じてその思想が伝わってきたのでは。稼ぐ稼ぐではなく、少しは損をして良いという気持ち。日本人はそれが得意なはずだった。いずれその価値観がスタンダードになる？
- ・シューマッハ。スモールイズビューティフルを書いた。人間が人間らしい仕事、安定した仕事をしようという論文。量ではなく、質。安倍さんは「前に進め」と言う。消費税を上げるなど。それは本当に幸せか？成長の先に一体何があるのか。「GDPが増えて幸せか」という議論がなされていない。
- ・そういう中で多様性が広まっている。みんなそれぞれ良い、ということ。良いものに良いものを足しても、必ずしも良いものにはならない。会社の部門でもそう。
- ・例え話。コンサートで一人がもっとよく見たいと立ち上がる。すると他の人も立ち始める。みんなが立つと何も見えなくなる。個々に都合の良いことをしても、悪くなる。文明の転換期においてもっと集団としての行き方を評価すべき。コンサートの例え話（一列目の人が一番よく見える）は、世界の数%が富の大部分を握るという形に似ている。
- ・海外からの留学生はバリバリ働く。日本の学生は東京を出たくないと言う。社会的課題を解決する方法で、イノベーションが利用されるかどうか。賢い人が抜け駆けするのは？
- ・阪大の話。大学というのは、どういう大学になりたいかを文科省に聞かれる。東大は「秀才を作りたい」と答える。でも実際必要なのは、秀才より天才では？阪大は「異才を作る」と答えた。東大でダメな人を見ていると、明確なものしか学ばない。曖昧なものを学ばなければいけない。阪大は「曖昧なところからものを出す」と言ったら予算が出た。鬼才というものもある？京都、大阪、神戸という関西の国立三大学。商売は神戸、野心のあるのが京都、実力はあるけど野心がないのが大阪。すごい人はいるが、ノーベル賞と

かに出る人がない。下馬評はあるが取れない。

- 法律、会計などの仕事は、今後AIで置き換わるはず。一番レベルが上がるのが歯医者では？本当は常盤さんのような話を考える人が文系にいたら良い。
- 「仕掛学」という本。著者はAIの研究者だが、「世の中のほとんどのことはデータになってない」と言う。自然の美しさで人は動く。統計などで人を動かすのは間違いと言っている。情報は五感から入ってきたときに、意味が出てくる。コンピューターは目だけ。意味をどう扱うか。人工知能はテキストで扱おうとして失敗した。
- 日本の経済成長は、明治以降でしかない。歴史は長くない。ハレとケがなくなる。土井さんのお話し。ハレのみを追い求めるので、ケがなくなっている。食べることをないがしろにしている。

(3) 出井さんの発表

(『発酵は錬金術である (第1章)』 『発酵 ミクロの巨人たちの神秘』)

- 「発酵」と聞いて思い浮かべるもの。お酒/醤油/味噌/パンとか。食品のイメージが強い。他にも、アミノ酸とか抗生物質も含まれる。環境浄化もそう。
- 発酵=fermentation。これはferver(湧く)に由来する。発酵とは「有機物が酸素のない状態の下で微生物の作用によって転化する現象で、かつ人間にとって有益であるもの」をいう。

	微生物が無害	微生物が有害
生成物が有益	発酵	病原体
生成物が有害	腐敗	病原体

- ・結局は人間目線。微生物はただ自分たちの生命活動を行っているだけ。
- ・「好気」「嫌気」は極めて日本人的表現。
- ・日本人は発酵に馴染みの深い民族。古くは魏志倭人伝に日本人がお酒を飲んでいた記述も。弥生時代には米を用いるアルコール発酵が行われていた。
- ・原核生物よりも真核生物の方が、作れるタンパク質や酵素の種類が多い。
- ・発酵研究者の聖地＝菌塚。
- ・遺伝子組換えでお互いのいい部分だけを取り出して新しい酵素を作り出すことも可能。
- ・人間が酵素を飼っているのか。酵素が人間を飼っているのか。

○今後のスケジュール

- ・基本的に第2土曜日に開催。以下開催予定。
3/11、4/8、5/13、6/10、7/8

○次回の発表予定

- ・白井さんの発表 『発酵は錬金術である（第2・3章）』